

ISBLANK関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

ISBLANK関数の「厳格な」役割

ISBLANK関数の「厳格な」役割

ISBLANK関数は、セルが「完全に空っぽ」であるかどうかを判定する関数です。「見かけ上の空白」との違いを厳格に示す役割があります。

=ISBLANK(テストの対象)

テストの対象（A1セルの状態）	数式 =ISBLANK(A1) の結果
何も入力されていない	TRUE（空白です）
数字や文字が入っている	FALSE（空白ではありません）
スペースが入っている	FALSE（空白ではありません）
数式=""が入っている	FALSE（※ここが要注意！）

 **ポイント**：スペースキーで入れた「空白文字」や、数式の結果としての「空白（空文字）」は、データが存在するとみなされ、FALSE が返されます。

【実践①】

IF関数と組み合わせて「入力漏れ」チェック

【実践①】 IF関数と組み合わせて「入力漏れ」チェック

実務で最も多い使い方は、IF関数と組み合わせて「未入力の場合に警告を出す」パターンです。

シナリオ: B列(氏名)が空白なら、C列に「※必須です」と赤字(条件付き書式併用)で表示させたい。

数式: `=IF(ISBLANK(B2), "※必須です", "")`

解説:

1. `ISBLANK(B2)` でB2セルが空っぽかチェック
2. TRUE(空っぽ)なら → "※必須です"を表示
3. FALSE(入力あり)なら → ""(何も表示しない)

【最重要】 「見かけ上の空白」 への対処法

【最重要】「見かけ上の空白」への対処法

VLOOKUPやIF関数などで、数式の結果として「空白（" "）」を表示させているセルに対して、ISBLANK関数を使うと **FALSE**（空白ではない）と判定されてしまい、計算が狂うことがあります。

解決策：「見た目が空白ならOK」としたい場合は、ISBLANKではなく、単なる等号（=）を使います。

判定したい内容	おすすめの数式
完全に未入力のセルだけを判定したい	=ISBLANK(A1)
数式の "" も含めて「空白」とみなしたい	=A1=""

IF関数での使い分け例： =IF(A1="", "空白です", "入力あり")

→ これなら、数式が入っているセルでも、見た目が空白なら「空白です」と判定されます。

【実践②】

条件付き書式で「未入力セル」に色を塗る

【実践②】 条件付き書式で「未入力セル」に色を塗る

リスト作成時に、入力漏れを一目でわかるようにするテクニックです。

手順：

1. チェックしたい範囲を選択。
2. [ホーム] > [条件付き書式] > [新しいルール] を選択。
3. 「数式を使用して、書式設定するセルを決定」を選択。
4. 以下の数式を入力し、背景色（黄色など）を設定。

数式例： `=ISBLANK(A2)` （※A2は選択範囲の左上のセル）

結果： これで、データが入っていないセルだけがハイライトされ、入力漏れを物理的に防ぐことができます。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。